



# 『鹿嶋力』 見つけた

市長エッセー No.60



▲10月26・27日に行われた「オリンピックが茨城鹿嶋にやってくる(同時開催 鹿嶋まつり)」でPR

鹿嶋港に第1船が入港したのは昭和44年のこと。今年、鹿嶋港は開港50周年という節目を迎えました。ご存じのとおり、鹿嶋市はこの鹿嶋港を中心とした鹿嶋開発を契機として、来年には東京2020オリンピックサッカー競技の開催地になるほ

ど、世界に情報発信できるまちへと発展を遂げています。今日があるのも市民、関係者をはじめ多くの方々のご尽力があったからこそであり、先代への感謝の思いを胸に、そのご労苦に報いて本市をさらに発展させることが私の使命だと考えています。

そのためにも、まずは東京2020オリンピックを成功裏に導き、「魅力あるまち」として本市を世界中の方々に認知してもらえるよう、市民の皆さんのご協力をお願いいたします。

## 鹿嶋市青少年相談員だより

問 社会教育課



### 「顔を合わせて 会話をすることを大切に」

三笠地区担当 市田信道 さん

相談員の活動を通して、最近の子どもたちの動向に疑問を感じていることがあります。

平成の中頃までは子どもたちがコンビニの前やゲームセンターなどに集まっていたが、最近はほとんど見ることがなく、相談員の巡回活動も今年度からはイベント時の巡回活動が中心となりました。

子どもたちは、スマホやSNSなどの急速な普及で容易に友達と連絡を取り合えるようになり、直接向かい

合って話す機会が減少しているように感じます。

いつでもどこでも連絡が取れることは、今の時代に必要なことだと思います。しかし、自分の気持ちを相手に伝える際に、絵文字などを駆使し

ても文章だけでは難しいものです。直接顔を合わせ、目や口の動きなど表情を見ることで、互いの気持ちを読み取ることができるのだと思います。スマホやSNSなどは情報を伝えるためには非常に優れた道具ですが、気持ちを伝えるときは直接会って話をしたいと思

います。今後、相談員として子どもたちと接する機会を増やし、会話の大切さを直接伝える活動を進めていきたいと思



▲鹿嶋まつりで活動

## 古川博士の気象コラム



古川 武彦…理学博士。元気象庁予報課長、札幌管区気象台長。退官後に「気象コンパス」を立ち上げ、気象の啓発活動などを行う。

「星霜を重ねる」という表現があります。天空を巡って1年で1周する「星」と毎年降りる「霜」は、どちらも1年を意味します。「重ねる」には、長年という単なる時間だけでなく、灯台守の夫婦を描いたドラマ「喜びも悲しみも幾年月」のように、喜怒哀楽が込められているそうです。皆さんの幾星霜はいかがでしょうか。

霜と言えば、11月は旧暦で「霜月」と呼ばれ、霜が降りる季節です。霜が降りる条件は、前夜から風が穏やかでよく晴れ、翌朝の最低気温が約4℃以下といわれます。気温4℃(地上高1.5mで計測)でも地表面は氷点下にな

るため、水蒸気が地表面で凍ることで霜が降ります。

ところで霜と露は、「降りる」、「結ぶ」などと表現されます。霜は気温が下がって葉の表面などが0℃以下になると、水蒸気が水滴という「液体」を経ずに、直接に固体である氷の結晶となって付着する現象で「昇華」と呼ばれます。まさに「降りる」ように成長します。一方、露は気温が露点温度に冷えると、水蒸気のまま存在できず、水滴となって葉面や窓ガラスなどに付着して玉のように成長する現象で、「結ぶ」はピッタリの表現だと思います。

目を空に転じれば、1万メートル近い上空に出現する「うろこ雲」は、霜と同じ仕組みで生まれ、周囲はマイナス50℃近い世界です。一方、露と同じ仕組みは青空に浮かぶ数千メートル上空の「羊雲」や「綿雲」です。霜と露の仕組みが雲と同じなのは不思議ですね。



▲車の窓に降りた霜の結晶